

「国語Ⅰ」の学習展開で総合性を どのように活かすか

鉄 車 佳 司 (国語科)

I はじめに

教育課程の改訂が実施されてから、2年目を迎え、現場、各高等学校では、57年度実施した教育実践に基づき、それぞれ反省、研究、検討・吟味を加え、軌道修正をしつつあると思われる。学校の置かれている立場を考慮しつつ、生徒の適性・能力・進路に合致した教育環境づくりに汗を流すのである。我々、教師は、常に指導要領に盛り込まれた抽象理念を、実践を通し、具体化して、生徒のよりよい人格形成を目指しているわけである。

我校でも、57年度の実践に基づき、さらに、生徒の実態に即した教育環境づくり、即ち具体的には、理想的教育課程の編成を目ざして検討を加えることによって教育活動を行っている、幾たびとなく教育課程の検討会が開かれた。当然、その下部の教科ごとの研究会も何回となく重ねなければならなかった。

その結果、国語科では、57年度の国語科としての教科カリキュラムを、58年度においてはその善悪を問わず改訂し、違った形式で行い、比較検討を加えてみようということになった。

以下は、その57年度に実施した、国語科としての「国語Ⅰ」の実践報告記録の一部分である、国語科として、教育課程を編成するに当たってどのように対応するか、また担当割りをどのようにするか、など以下の各項目は、本紀要別項目で書いたもので、ここでは、表題に示すごとく、「国語Ⅰ」の「総合的学習」を展開するために、具体的に授業をどう実践したかという指導法の面から述べることにしたい。

1. 国語Ⅰの標準単位数をどう考えるか
2. 国語Ⅰの担当をどのようにしたらよいか
3. 国語Ⅰの教材内容・量ははたして十分か
4. 国語科の選択科目をどのようにするか
5. 国語Ⅰの指導を効果的にするにはどのようにするか
6. 年間授業計画

以上の項目は、別項「国語Ⅰをどのように教えるか」(本紀要 7 ページ)に簡単に触れておいた。

II 「国語Ⅰ」の学習を総合的に扱うにはどうしたらよいか

① 教科書の選定

本校国語科の方針として、一貫しているのは、教科書の選定は、毎年新1年ごとに改新して行く。そして、どの教科書が優れているかを研究することにある。したがって、新教育課程の発足に当たって、恣意的に、内容の解らないままに決定するわけにはいかない。新改訂の基本方針であるところの「理解・表現・言語事項」を有機的に取り扱うという目標を充たしてく

れる教科書はないか、現代文と古文とを関連させ総合的に「理解」「表現」を学習できる教科書はないか。この観点から、教科書の検討を開始したのは、昭和55年暮である。

その結果、一つの単元構成の中に「古典教材」と「現代文教材」とを関連させて収めていると思われる教科書は次のとおりであることが分った。 調査対象 12社 13種

教科書会社	教科書	単元	教材	作品 作者
光村図書	国語 I	五 状況と人間	頼信と盗人 養和の飢饉 羅生門	今昔物語 方丈記 芥川龍之介
		十 歴史と人間	木曾の最後 易水の別れ 歴史と光と影 大津皇子	平家物語 史記 井上 靖 万葉集
		三 言葉と思索	人の心 孔子と孟子 私の古典	徒然草 論語 孟子 高橋和巳
筑摩書房	国語 I	3 古典 (一) 説話と軍記	古典を読む 馬盗人 木曾の最期	秋山虔 今昔物語 平家物語
		7 漢文 (一)	唐詩を味わう 静夜思	高木正一 李白、柳宗元、杜牧
		8 古典 (二)	ゆく河の流れ つれづれなるままに 「徒然草」の現代性について	方丈記 徒然草 西尾 実
		12 古典 (三) 王朝の歌	東下り 王朝の歌 やまと歌の自覚	伊勢物語 古今・後拾遺 新古今・梁塵 秘抄 安田章生
基本 明治書院	国語 I	二 古文に親しむ	春はあけほの 五月の山里	田中澄江 枕草子

			児とかいもちひ	宇治拾遺物語
学校図書	国語 I	三 古典 (一)	かぐや姫 おひたち 昇天	斎藤雅子 竹取物語
		八 古典 (二)	万葉集 古今和歌集 私の好きな新古今の歌	松村英一
教育出版	国語 I	11 古典と現代	貝あわせ 陰翳礼讃 徒然草の世界	福永武彦 谷崎潤一郎 山崎正和

上表のように、一単元の中に「現代文」教材と「古典」教材を関連させて有機的に取り扱うようにする姿勢の見られるのは、私の調べたところでは、以上5社の教科書であるが、他の社は、単元ごとに、現代文、古文、漢文を独立させている。ただし、明治書院の国語 I は、入門期のみを取り扱いであり、教育出版のものは、古典教材を一単元の中に直接含まず、古典の読解ができるようになっていることを条件とする編集の仕方をとっている。

そして、このような現代文と古典とを関連づけて単元構成をとっている教科書を教える場合は、二人の教師がそれぞれ「現代文」担当、「古文」担当と分離独立して教えようとする場合は困難を生ずるとと思われる。

ところで、国語科として、今改訂に際して次のような目標を建てた。

1. 多読により、国語の力を増す。
2. 今改訂の主眼目の一つである「総合化」を目ざす。
3. そのために、現代文と古文は一人の教師が担当する。
4. ただし、漢文は、教官の構成、担當時数の公平化のために分離せざるを得ない。
5. あくまで、研究を目標とし、担当割は来年度(58年度)も継続するとは限らない。

この目標に適合する教科書として、教育出版「国語 I」を採択することとした。この教科書中の単元11 古典と現代 の教材に魅かれたのである。多読の方針にそって、堤中納言物語や徒然草を読み、相互理解を深めようと考えたわけである。

②「国語 I」総合化の試み

昭和57年度1年使用教科書、教育出版「国語 I」の単元構成は、次のとおりである。

1. 読書と言葉	〈対談〉本との出会い、言葉の里帰り、	世界の中の日本語
2. 詩	鉄棒、富士山 作品第肆、これから、寂しき春、	いろは歌 五十音図
3. 物語と故事	宇治拾遺物語、竹取物語、短文、故事	
4. 小説	山椒魚、たわむれ、羅生門	漢字と仮名
国語表現法 1	文章を書く	
5. 随想と評論	なまいき、親友とライバル、経験について	文体のいろいろ
6. 物語と漢詩	平家物語、	平家物語の言葉と表現、漢詩 漢詩のきまり

7	小説	春の日のかげり、高瀬舟、 敬語
8	和歌	万葉集、古今和歌集、新古今和歌集 万葉・古今・新古今の歌風 近代短歌
	国語表現法 2	随想を書く・主題と材料
9	随想と思想	方丈記、徒然草、 対句と比喻 、論語、孟子、 古代中国の思想
10	俳句	近世俳句、近代俳句
11	古典と現代	貝合わせ、陰翳礼讃、徒然草の世界、 外来語・訳語

この単元のうち、特に、単元3の「平家物語」を補助教材を使用し拡大し、古典と現代文との融合を図りながら、かつ表現の学習をも兼ね、「理解」、「表現」の二領域を、ともに学習して行くことを目標とした。以下、その授業の展開を、学習指導計画によって提示しよう。

なお、古文の読解の基本は一学期に重点的に扱い、その土台に立って、二学期において総合化を試みることにした。

実践例 その1 平家物語と小林秀雄

科目 国語I 対象学年 第1学年 期日 10月

教材 平家物語 祇園精舎、生食の沙汰（プリント）、宇治川の先陣（プリント）
小林秀雄 「平家物語」（角川文庫「無常ということ」）（配当時 8時間）

教材観 古典「平家物語」は、物語的要素を含む楽しい読みものである。1年生の2学期の教材として、欠くべからざるもので生徒も非常に興味をもって対する。この平家物語の魅力は、一体どこから生まれるのか。その根本を探ったのが、小林秀雄である。簡潔な文体、一切の無駄を省略した文体、それによってというよりも、ありありと眼前に躍動する姿をそのまま一筆の絵に表わすごとく描いたその結果が、平家の文体だという。叙事詩人の魂が、ものを「観」ているのだという。このような小林の観方を通し、古典として生きている「平家物語」の特色を理解するようにしたい。ただ、小林の評論は、難解であると一般的に思われている。1年生の教材として取り扱うことは不適当かもしれないが、平家物語を理解するためには、小林の側面を示すことが是非必要であると考ええる。また、全く抵抗のない読みものを読んではばかりでは、読書力が身につくはずはない。読書の秋を目指し、より高度な読書体験をさせたい。

さらに、表現の簡潔さ、躍動感を味わい、表現学習の一助となることを願っている。

学習計画

第一時 祇園精舎 音読→朗読→暗誦にまで高め、韻律の良さを体得する。

諸行無常、盛者必衰の語の一般的理解

生食の沙汰 筋立ての概要を知るよう指名読み、範読、指名読み、概略説明
詳しい読解はしない。

第二時 宇治川の先陣 指名読み、範読、指名読みを通して、先陣争いの状景を知る。詳しい読解はしないで、あくまで音読を中心とする。

「平家物語」(小林)を通読し、難解語句の質疑応答を受ける。再読

第三時 生食の沙汰 読解

第四時 宇治川の先陣 読解

第五時 a 「平家物語」(小林)を、内容から見て、前半の描写の特色を語る部分と、後半その描写の特色を支えている「叙事詩人の詩魂」について語る部分とに分ける。

b 小林が平家物語の美しさの急所としているものは何かを、考える。

(1)生食の沙汰の描写の特色を小林はどう感じているかを理解する。

ア「その調子には少しも悲壮なものはない、もちろん感傷的なものはない。傍若無人の無邪気さがあり、気持ちのよい無頓着さがある。

イ「とんだ決心をアッと思う間にしてしまう」

ウ「大笑いしてさっさと行ってしまう」

エ「まるで心理が写されているというより、隆々たる筋肉の動きが写されているような感じがする。事実そうに違いないのである。この辺りの文章からは、太陽の光と人間と馬の汗とが感じられる、そんなものは少しも書いてないが」

ア、イ、ウ、エ の小林の感じ方を、生徒が平家の中に感ずるかどうか。「生食の沙汰を再読しながら吟味する。

第六時(2)第五時 b の続き 宇治川の先陣描写の美しさの急所は、どこにあると小林は感じているか。また「小宰相」の見た月はどんな月であったかを理解する。

ア「宇治川がどういう川だかわからないが、水の音や匂いや冷たさは、はっきりと胸に来て、たちまち読者はそのなかにいるのである。そういうふうに読者を捕えてしまえば、先陣の叙述はただの一刷毛で足りるのだ。

イ「ぼくらは、彼ら自然児たちの強靱な声帯を感ずるように、彼らの涙がどんなに塩辛いかも理解する。」

ウ「これが平家という大音楽の精髓である。

エ「とともに突然自然が眼の前に現われる。しかも彼女の一度も見たこともないような自然が。」

ア、イ、ウ、エの小林の感じ方を、生徒が平家の中に感ずるかどうか。「宇治川の先陣」を再読しながら吟味する。」

第七時「平家物語」(小林)後半「叙事詩人の伝統的な魂」とは、どんな魂か。「真実なる回想」とはどんなものか、を理解し、ものを観る心に近づく。

ア「今様風の哀調」

イ「平家作者は優れた思想家でない」

ウ「叙事詩人の伝統的な魂」

エ「このシンフォニーは短調で書かれている。」 中世の時代相を識る。

オ「真実なる回想」

小林の「ものを観る」心、諸観念にとらわれることなく、ただ心眼を開き、無心に没入することによって、全ての諸元素が「眼前にあるものとして観えてくる」その心を理解させる。

第八時 整理、書写により、簡潔な文体の一端にでも触れさせる。 表現学習主体

反省

各時間の指導案は省略するが、実際に、指導して見て問題となる点、反省点を箇条書きして

みると、

1. 平家物語（祇園精舎、生食の沙汰、宇治川の先陣）および小林秀雄の「平家物語」の両教材を8時間で取り扱うのはやや無理で、10時間の配当時間が欲しい。
2. 生徒自身は大変興味をもっていただようであるが、小林のものの観方に影響を受け過ぎて客観的に古典としての平家物語を読めなかったきらいがある。（生徒の意見）
3. 教材がむずかしいため、特に小林の「真実なる回想」という臨場感にあふれるもしくは眼前に生き生きと動き回る姿を見るという読み方にまで高めることがむずかしい。
4. 講義調、説明的おしつけの授業になりやすい。

③「国語Ⅰ」総合化の試み その2

実践例 その2 徒然草と山崎正和

科目 国語Ⅰ 対象学年 第1学年 期日 1月

教材 教科書教材 山崎正和「徒然草の世界」 (配当時 8時間)
岩波文庫 徒然草、プリント 方丈記

教材観 山崎正和は、現代の代表的劇作家であるとともに、評論家として、多方面な分野での評論活動を行っている。本教材は、筆者の芸術論のもととなる世阿弥の芸能への道のごく初期、芸の発生を徒然草を通して論じた興味深いものである。しかしこの教材は、論の前半と後半が省略されているので補って行く必要がある。なおかつ、この教材に入っていくなり徒然草を生徒にぶつけるのは、理解の上で無理を生ずると思われる、そこで、二学期後半から三学期にかけて、徒然草の読解に慣れておく必要がある。そのような予備過程を経て、三学期に入りこの教材に当ることにした。

学習計画

- 第一時 「徒然草の世界」通読、鎌倉から室町へかけての歴史的背景の説明。段落に分ける。
- 第二時 第一段落 芸の意識と都会性、都会の定義、聖域の理解。
「永長の大田楽」はなぜ大流行したか、なぜに「聖域が崩壊」したのかを平安末の歴史的背景をふまえて理解する。
「方丈記」を読み、聖域の崩壊の様相を知る。
- 第三時 第二段落 新しい都会性のよみがえり、「微妙な人心の変化」を理解する。
徒然草 第80段、第165段を読み、古い王朝の価値観と新しい風俗とによって二つに引き裂かれている兼好の姿を知る。徒然草、第79段を読む。
- 第四時 第三段落 新しい価値観すなわち能力主義にもとづき、「芸」の意識が生まれてくることを理解する。
第四段落の通読
- 第五時 } 徒然草 第266段 第185段 第186段 第134段 第150段 第151段 第136段
第六時 } 第168段 の読解
- 第七時 第四段落 王朝時代の「風月の才」に対して、中世に至って、さまざまな「才」が認められて来たことを、第五時、第六時で読んだ徒然草を復習しながら理解する。

さらに、兼好がこのような新しい価値観に対して「恥ずべきこと」として対していたことを、徒然草を復習しながら読む。

第八時 整理、要旨400字で書く。

④ 実践後の感想

以上は、現代文と古文をどのようにアレンジして授業を展開したかという、ささやかな試みの報告であるが、その他にも年間授業実施報告に示したとおり、

ア. 小林秀雄「徒然草」←→ 徒然草

イ. 福永武彦「貝合わせ」←→ 堤中納言物語「貝あはせ」

と都合、年間4編の作品を古文と結合させて授業を実践したわけである。

このような授業形態は、反省してみるに、次のような条件を備えていることが必要であると思われる。

1. 「国語I」の教師担当割が、現代文と古文とに分かれていないこと。
2. 古文の読解力が、かなり生徒についていること。
3. 教科書教材に束縛されずに自由に教材開拓をすること。
4. 開拓した教材は、生徒の学力・興味に応じ、十分吟味した上で、配列すること。
5. 現代文になったり、古文になったりと授業の内容が変化するため、生徒に混乱を招き易いから、次時予定を明確にしておくこと。
6. 配当時間を十分にもつこと。
7. 大規模校では、一人の教師で学年全体を担当することは不可能である。したがって、担当者同士の進捗その他の調整が困難になると思われる。

さて、このように実践した授業について生徒はどう感じているか。現2年生（昭和58年度）は、現代文と古文とを別々に独立させ、二人の教官が担当している。1年生、2年生と異った授業形態をとって来た。現2年生137名のアンケート結果を次に示してみる。

Ⅲ アンケート報告 対象 2年生 137名

1、中学校3年生の国語と比較して、高校1年の国語はどう思いますか。

ア 難しい	イ 易しい	ウ だいたい同程度	エ その他
122	0	14	1

2、1でアを選んだ人で、難しいと思うのは、どんな点ですか。むずかしいと思うものに○

A

ア 現代文	イ 古文	ウ 漢文
89	99	65

Aで○印をつけた事項について、次のB、Cからむずかしいと思う内容をいくつでも選んで下さい。

	現代文		古文		漢文	
B	ア 小説	35	ア 物語	53	ア 経	28
	イ 評論	61	イ 随筆	54	イ 史	37
	ウ 随筆	38	ウ 日記	36	ウ 論	35
	エ 短歌	25	エ 和歌	31	エ 詩	25
	オ 詩	36	オ 俳句	24		

C	ア 語彙	49	ア 語彙	70	ア 語彙	47
	イ 思想	68	イ 主語	31	イ 思想	28
	ウ 作文	44	ウ 文法	70	ウ 訓読	38
			エ 解釈	65		

3、1年生の国語と2年生の国語と比較して、次の質問に答えて下さい。

A 2年生になって国語はむずかしくなったと思いますか。

ア むずかしくなった	イ 変わらない	ウ わからない	エ 無答
37	79	18	3

B 現代文と古文の担当先生が別々になったことをどう思いますか。

ア 良い	イ 悪い	ウ どちらでもよい	エ 1年は同じで2年から別
85	3	38	11

ア、イに○印をつけた人で、理由があれば簡単に書いて下さい。

- | | | |
|---------------------|----|---------------------------|
| 理由1. 同じ先生だと飽きるから | 25 | (注「良い」としたものの理由をだいたい分類した。) |
| 2. 多く先生の個性にふれられるから | 20 | |
| 3. 区切りがついて、分りやすいから | 15 | |
| 4. 専門化して、深まるから | 8 | |
| 5. 教材の内容に応じて対応すればよい | 3 | |

C 1年生のとき、小林秀雄の「平家物語」を読みながら合わせて、古典「平家物語」を読んだことについて、どう思いますか。

ア 良い	イ 悪い	ウ わからない
106	18	13

D 1年生のとき、山崎正和「徒然草の世界」と「徒然草」を合わせ読んだことをどう思いますか。

ア 良い	イ 悪い	ウ わからない
82	18	37

E : 1年生のとき、小林秀雄の「徒然草」と「徒然草」を合わせ読んだことをどう思いますか。

ア 良い	イ 悪い	ウ わからない
95	19	23

F : 1年生のとき、福永武彦の「貝あわせ」と堤中納言物語の「貝あはせ」を合わせ読んだことをどう思いますか。

ア 良い	イ 悪い	ウ わからない
81	17	39

4. 現代文と古文を関連させて読むことについて、どう思いますか。

ア 関連させた方が良い	イ 独立させた方が良い	ウ どちらでもよい
84	21	31

ア、イ、ウそれぞれ選んだ理由があれば書いて下さい。

○ アを選んだものの理由

1. わかりやすい 50
2. 教材によって 3
3. 同じ母国語 3

代表的な理由の紹介

1. 成立背景や、作者、題材など単独ではわからないことがらを補える点が非常に有益であると思う。
2. 古典「平家物語」も知らないで、なぜ小林秀雄「平家物語」が読めようか。
3. 真理を究めるには最善の策。だがあくまでも主眼をどっちに置いているかは、はっきりと区別して欲しい。
4. 関連させてよむとわかりやすい。古文という意識にとらわれなくて勉強できる。
5. 理想は、同じ文学なのだし、関連がもてれば最高だろうが、実際は、なかなか難しく、古文の解釈、文法がおろそかになりあまりよくない。だから古文を修了してから、現代文をやればよい。

○ イを選んだものの理由

1. 相互のノートが混乱するので勉強しにくい。
2. 古文の基礎ができていない。
3. 「貝あわせ」と「貝あはせ」はテーマが結びつかない。
4. 頭が混乱しなくてよい。
5. 先生が違う方がよい。
6. 現代文により、古文の印象が固定化されてしまう。

IV あとがき

以上、「国語I」の総合化をねらって試みた授業の反省点、問題点は、生徒のアンケート回答の中に集約されている。指導要領では、中学校の延長線上にある総合的国語の学習を狙ってい

るのであるが、ただそれだけですむものでもない。平易に過ぎても、難解に過ぎても、よくない。一步一步前進のある真の国語学習とは一体どのような姿をしているのか。

「国語の学習は、まず『読む』から始まる。『読む』とは、単に文字を認識し、音声を発音し、意味を理解するだけでなく、その文章の構造や表現の妙味を捉え、自分の言葉で表現できるようにすることである。」

「『読む』は、国語学習の基礎であり、その重要性は言うまでもない。しかし、ただ『読む』だけでは、国語の力を十分に伸ばすことができない。『書く』、『話す』、『聞く』の学習も必要である。」

「『書く』は、自分の考えを整理し、表現する力をつけるために必要である。『話す』は、自分の考えを相手に伝える力をつけるために必要である。『聞く』は、相手の考えを理解し、応答する力をつけるために必要である。」

「国語学習は、読む、書く、話す、聞くの四つの活動をバランスよく行うことが大切である。また、国語学習は、日常生活の中で行われることが大切である。教科書の学習だけでなく、新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどを通して国語を学ぶことも大切である。」

「国語学習は、自分の興味・関心のある分野から始めることが大切である。興味・関心がある分野では、自然と国語を学ぶことができる。」

「国語学習は、自分の得意な分野から始めることが大切である。得意な分野では、自然と国語を学ぶことができる。」

「国語学習は、自分の生活の中で行われることが大切である。教科書の学習だけでなく、新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどを通して国語を学ぶことも大切である。」

「国語学習は、自分の生活の中で行われることが大切である。教科書の学習だけでなく、新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどを通して国語を学ぶことも大切である。」

「国語学習は、自分の生活の中で行われることが大切である。教科書の学習だけでなく、新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどを通して国語を学ぶことも大切である。」

「国語学習は、自分の生活の中で行われることが大切である。教科書の学習だけでなく、新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどを通して国語を学ぶことも大切である。」

「国語学習は、自分の生活の中で行われることが大切である。教科書の学習だけでなく、新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどを通して国語を学ぶことも大切である。」

「国語学習は、自分の生活の中で行われることが大切である。教科書の学習だけでなく、新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどを通して国語を学ぶことも大切である。」

「国語学習は、自分の生活の中で行われることが大切である。教科書の学習だけでなく、新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどを通して国語を学ぶことも大切である。」

「国語学習は、自分の生活の中で行われることが大切である。教科書の学習だけでなく、新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどを通して国語を学ぶことも大切である。」

「国語学習は、自分の生活の中で行われることが大切である。教科書の学習だけでなく、新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどを通して国語を学ぶことも大切である。」

「国語学習は、自分の生活の中で行われることが大切である。教科書の学習だけでなく、新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどを通して国語を学ぶことも大切である。」

「国語学習は、自分の生活の中で行われることが大切である。教科書の学習だけでなく、新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどを通して国語を学ぶことも大切である。」